

事業所名 グループホーム 敬愛
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成21年 3月31日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 社会福祉法人生活指導員、居宅介護支援事業所管理者
資格・経験 身体障害者職業生活指導新、社会福祉主事、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー
B:現職 自営業
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> 入居者個々の生活スタイルを入居後も継続し、日々の暮らしの中で入居者の持てる力を最大限に活用し、生活に張りや喜びを感じ、生き生きと暮らせるように努めている。 支援する側、される側という一方的な関わりではなく、日々、共に過ごし、共に支え合う関係を築き、入居者一人ひとりと向き合い、ホームが入居者にとって束縛感や孤独感なく、開放的で居心地の良い居場所となるように取り組んでいる。 管理者や職員が交代する場合、入居者が不安無く、安心して過ごせるよう、入居者への影響が最小限に止まるように配慮している。 職員全員が一定のケアを入居者に提供できるよう、研修に参加した職員は報告書を作成して全職員に周知徹底を図り、内部研修の充足にも努めている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> 入居者が主体となって、その人らしい生活ができる場作りを行っている。本人の望む暮らしを支援し、入居者一人ひとりが持っている生活のリズムを大切に、日々その人らしい過ごし方が出来るように支援している。 家族や本人の思いや状況を見極めながら、暮らしの中で気持ちに張りや潤いを持ってもらえるよう、一人ひとりに合わせた声かけやスキンシップを心がけている。 職員は、入居者の話に真摯に耳を傾け、入居者の思いや不安、喜び等を知ること努め、日々の暮らしの中で分かち合い、入居者が穏やかな気持ちで過ごせるように努めている。 ホームでは小型犬を飼っており、動物と触れ合うことはストレスを軽減したり、心の癒しともなる。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

外部評価の結果

講評
<p>全体を通して特に良いと思われる点など(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループホームと併せて、訪問介護センター・ケアプランセンターを運営しており、このたび新しくデイサービスも開設する予定であり、複合的な介護サービス施設として、地域の中で高齢者の暮らしを支え続けている。 複数の医療機関と提携し、入居者の健康な暮らしを支えており、日常的な受診はもとより、緊急時にも速やかな医療対応が可能である。また、職員の中に看護資格を有する職員と認知症ケア専門士を配置し、入居者の安全・安心な暮らしの確保に努めている。 ユニットごとに特徴があり、介護サービスや共用スペースの使い方もそれぞれ工夫して活用している。ユニットごとの会議や2ユニット合同での会議や研修等を行い、互いの連携を密にして災害等緊急事態にも協力し合えるように体制を整えている。 「ゆっくり、楽しく、一緒に」をモットーに、職員は常に穏やかにゆったりと入居者に接しており、入居者の心の安定を図り、入居者の笑顔や喜びを引き出し、生き生きと暮らせるように日々取り組んでいる。 入居者がホームを最終の住み家として満ち足りた気持ちで暮らしてもらえるよう、ターミナルまでのケアを提供しており、最期まで入居者がその人らしく心穏やかに暮らせるように支援している。 <p>特に改善の余地があると思われる点(記述)</p> <p>特に改善の余地あると思われる点は無い。</p> <ul style="list-style-type: none"> これからも、基本理念に沿って「優しい心」で地域の高齢者の暮らしを支え続けていられることを期待する。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援	○	
23	認知症の人の変容に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の豊かな生活を支えるため、入居者それぞれの経験や知恵を活かせる役割や楽しみごと等を作り、持てる力を発揮してもらい、達成感ややり甲斐を感じて生き生きと暮らせるように支援している。 入居者の誇りやプライバシーを損ねることがないように、トイレにはアコーディオンカーテンを一枚増やし、居室には許可を得てから入り、人前でのあからさまな声かけや誘導は行わない等、職員の対応を徹底している。 面会簿は個人ごとに設け、個人に関する記録については管理者が責任も持って管理している。不要な書類は、シュレッダーで廃棄し、個人情報が増えることがないように取り扱いには十分に気をつけている。 ホーム誌に入居者の写真を掲載する場合は、家族の了解を得てから掲載し、その旨を明記している。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> 日々の介護の中での「小さな気づき」を記録し、職員間で情報を共有して、より手厚い介護を提供できるように努めている。 代表者は、新規採用の職員の指導や教育、職員研修を推進しており、ホーム全体で介護水準を高められるよう、外部研修への参加も積極的に動いている。 現場の職員からの考えや意見を出しやすいように、「起來書」を設けている。様式も工夫しており、反省点についても記入できるようにしており、各自が向上心を持って働き続けられるように取り組んでいる。 入居者の安全の確保と衛生管理には留意しており、食中毒に関する衛生管理マニュアル、身体拘束マニュアル等を設け、入居者の安全・安心な暮らしを支えている。 日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。また、事故処理報告書を作成し、介護に関するあらゆる事故・トラブルの記録を時系列に整理して原因を探り、今後の予防・対策について検討している。 医療・食事・接遇・事故防災対策等の各種委員会を設け、入居者の生活の安全・向上をめざして検討し、より豊かな暮らしを提供できるように取り組んでいる。 		